

科目名	開講時期	開講学年	必修/選択	単位	時間
小児看護学実習	前後期	3年	必修	2単位	90h
担当教員名	メールアドレス		オフィスアワー		
◎ 臼井雅美、加藤俊枝	masami.usui@tohto.ac.jp		月曜～金曜（9時～16時）		
授業の概要					
小児期における対象を理解し、様々な状況にある子どもとその家族への看護が実践できる基礎的能力を養うことを目的に、保育所、小児病棟にて学ぶ。*この科目は看護師の実務経験のある教員による授業科目です。					
キーワード	到達目標				
小児看護 小児の成長発達 看護過程 小児と家族への最善の利益	〔保育所等実習〕 1. 小児の成長発達過程について理解する。 2. 小児の成長発達過程における日常生活の援助について理解する。 3. 保育所の役割・機能について理解する。 〔病棟実習〕 1. 健康問題をもつ小児とその家族に対して、小児看護に必要な知識・技術・態度において既存の理論を活用し看護の実際を学ぶ。 2. 小児とその家族にとっての最善の利益を追求する。 3. 小児とその家族への看護を通して小児看護の役割を考察する。				
学習内容					
〔保育所等実習〕					
1. 実習クラスの保育活動に参加する。保育士の指導をクラスの子どもとともに受け、子どもと行動を共にする。保育士が実施するクラスの日課活動及び日常生活の援助を見学する。 2. 保育士の指導の下、または保育士とともに子どもの日常生活の援助を実施する。 3. 子どもの遊びの形態や種類が発達に伴い変化することを理解しながら、子どもの遊びに参加する。 4. 保育ノートや保育士と家族との関わり等から、家族と保育所との連携の実際を学ぶ。					
〔病棟実習〕					
1. 受け持ち小児の健康状態や家族の状況をアセスメントし、援助の必要性の高い看護問題を明らかにする。 2. 看護問題に対し看護計画を立案し、小児の発達段階と個別性に対応して基本原則に基づき必要な看護を指導者とともに、または指導のもと実施する。 3. 実施した看護が有効であったかを小児とその家族の反応から、日々評価し、計画の修正をする。 4. 受け持ち事例の治療や検査のスケジュールを確認し事前学習をして見学する。					
※詳細は「小児看護学実習要項」を参照					
受講要件					
小児看護学関連科目および基礎看護学実習Ⅱの単位を修得していること。					
レポート（実習記録）	その他（実践）		合計		
50%	50%		100%		
教員からのメッセージ					
臨地実習は学びの宝庫です。講義だけでは学べない、貴重な学びの機会となるよう、事前準備をしっかりとし実習に臨みましょう。また、それぞれの子どもの特性を理解し、対象とその家族の必要としている援助は					

何かを考え、真摯かつ主体的な姿勢での実習への取り組みを求めます。